

医学研究センター

医学研究センター

片桐 岳信
(センター長)

本学では、毛呂山、日高、川越の各キャンパスを拠点として活発に医学研究が行われている。3つのキャンパスには、先進的な機器を備えた医学研究の共用施設及びその支援施設として、中央研究施設（毛呂山）、中央研究施設日高ランチ（日高）、ゲノム医学研究センター（日高）、およびリサーチパーク（日高）、研究部（川越）があり、本学研究者の独創的なアイデアが、最大の研究成果に結びつくよう支援体制が整えられている。医学研究センターは、本学の研究施設の統合的・効率的運用と研究活動のシステム整備を主な目標として発足し、現在は以下の6部門で構成される。各部門はキャンパスや学部間の境界を取り除いた全学的な人選による部門長、副部門長、部門員で構成され、それぞれの部門が異なる側面から本学の研究活動を支援している。2019年度は、松下 祥前センター長から、片桐岳信がセンター長を引き継いだ。

医学研究センターの各部門は、埼玉医科大学医学研究センター規程に謳われているように、『本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上及び研究成果の社会への還元に資すること』を目的として活動している。適宜、各部門内で会議を行うだけでなく、センター長と各部門長・副部門長による定期的な運営会議を月に1度開催し、センター全体で情報を共有している。

- 1) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：RI、DNA、薬物、環境、動物、感染など、研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

研究主任部門では、学内グラント受賞者による研究発表会を主催している。ゲノム医学研究センターでは、毎年、日高キャンパスにおいて「RCGM フロンティアシンポジウム」を開催してきた。令和元年度は、本シンポジウムを全学的なものとするために、会場を毛呂山キャンパスのオルコスホールに移して開催された。特別講演、口演、及びポスター発表により、盛況なシンポジウムとなった。これを受けて、今後、学生を含めて本学の研究者が一同に会し研究についてディスカッションできる「研究の日」を作ることが検討されることとなった。医学部3年生に対して「研究医養成プログラム」への参加を公募し、課外学習プログラムなどを通じて研究医養成活動を展開している。

本学には、研究用共同利用施設として、中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）があり、多くの研究者の活動を支援している。共同利用施設運営部門は、各施設における研究分野ごとの部門、動物実験系、放射線（RI）系、形態系、機能系の部門長、施設長、研究者の委員により構成され、研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、「共同利用実験室」と呼ばれる共用実験スペースを管理・運営し、本学で研究室を持たない者や、研究室の構築段階にある者の研究活動を支援している。

研究支援管理部門では、論文投稿の際に提出が義務付けられている論文投稿報告書の管理、学内グラントの募集、審査会の開催、および管理、学外の競争的研究資金の獲得の支援、などを行なっている。学内グラントは、本学において長年行われたストーリー性のある研究を対象とした「丸木記念特別賞」、前年度の文科省科研費が不採択となった課題を対象とする「一般枠」、および、一般枠の中で最も優秀な若手を対象とする「関口記念特別賞」からなる。本学では、学内グラントの他に、「研究マインド支援グラント」として3種類の研究助成が行われている。1つ目は両学部の学生と大学院生を対象とした課外学習プログラムに対する助成、2つ目は両学部における共通部門を対象とした助成、3つ目は科研費や学内グラントを持たない医学部基礎医学系の若手限定助成である。それぞれの研究助成に関する募集要項や過去の助成実績などは、随時、医学研究センターのHPにおいて公表されている。本学には、この他にも保健医療学部のグラント、病院長裁量経費による若手支援グラントなどがある。

安全管理部門では、本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とし、以下の6つの分野により構成される。1) 麻薬や向精神薬、農薬の管理を行う薬物分野、2) 研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理するRI分野、3) 実験系廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う廃液等環境分野、4) BSL2以上の病原性微生物や、それらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う感染分野、5) 組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行うDNA分野、6) 実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う動物分野。

フェローシップ部門では、「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の募集と選考を行なっている。本奨学金応募者の利便性を高めるため、英語版募集要項の作成や、募集要項の早期の掲示などの改善に取り組んでいる。さらに、令和元年度からは、留学生が大学院在学中は継続して奨学金を受給できるよう改善した。

研究評価部門では、本学研究者の研究業績を登録・集計・公開することにより、本学の医学研究の発展に資することを目的に、平成18年から研究業績データベースシステムを導入・運用している。以来、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録し、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ (researchmap)」とデータ交換を行い、研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。平成26年度人事考課からは、研究業績の確認にも用いられるようになり、平成27年度人事考課からは提出書類に「研究ポイント」を記載し、研究活動の実績を数値化している。本研究業績データベースには、医学部と保健医療学部をあわせて1,411名の研究者が登録されている（令和2年6月）。

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授: 任期: H31年4月1日～R3年3月31日
副部門長 田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部: 教授: H31年4月1日～R3年3月31日
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki): 保健医療学部医学生体工学科: 教授: H31年4月1日～R3年3月31日
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 准教授: H31年4月1日～R3年3月31日
部門員 町田 早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 助教: 任期なし

2. 目的

本部門は研究活動にとって有意義な情報が研究主任を通して基本学科の研究員の隅々まで伝達できるよう、体制整備を行う。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。本年は学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

1) 第19回学内グラント受賞者成果発表会

日時: 令和1年7月19日(金曜日) 17:00～19:15

場所: 毛呂山キャンパス本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3(テレビシステム中継)

日高キャンパス・教育研究棟2階会議室1(テレビシステム中継)

発表者(敬称略; 所属)・演題:

1. 17:05～17:30

宮本和 総合医療センター 小児科

「未熟児網膜症マウスモデルにおける細胞内抗酸化物質チオレドキシンの重要性」

2. 17:30～17:55

丸谷康平 保健医療学部 理学療法学科

「軽度認知障害に対する汎用性の高いスクリーニングシステムおよび介入方法の構築」

3. 17:55～18:20

鈴木正 医学部 教養教育

「環境と結合した1次元開放量子スピン系の量子アニーリングと熱化」

4. 18:20～18:45

前崎繁文 埼玉医科大学病院 感染症科・感染制御科

「発熱性好中球減少症のメタゲノム解析を目指した革新的シーケンス技術の臨床応用」

5. 18:45～19:10

千本松孝明(丸木記念特別賞) リサーチアドミニストレーションセンター

「高効率・高品質な患者初代培養細胞由来iPS細胞誘導法の確立」

総合司会: 国際医療センター 海老原康博

座長: 総合医療センター 井上成一朗, 保健医療学部 藤田博暁, 医学部 向田寿光,

国際医療センター 福島敬, 海老原康博

開会の辞: 別所正美 学長 閉会の辞: 片桐岳信 医学研究センター長

総参加数：合計 65 名（大学院生 13 名）

毛呂山キャンパス 43 名（大学院生 4 名）

日高キャンパス 12 名（大学院生 3 名）

川越キャンパス 10 名（大学院生 6 名）

2) 第 20 回学内グラント受賞者成果発表会

日時：令和 2 年 2 月 28 日（金曜日）17：00～18：50

場所：毛呂山キャンパス・本部棟第 3 講堂

川越キャンパス・管理棟 2 階カンファレンス 3（テレビシステム中継）

日高キャンパス・教育研究棟 2 階会議室 1（テレビシステム中継）

上記のように第 20 回学内グラント受賞者成果発表会を予定しておりましたが，新型コロナウイルス感染拡大の対応により，集会などの自粛要請がされましたため，第 20 回学内グラント成果発表会は延期となりました。

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 准教授 医学部 生化学
部門員 大竹 明 (OHTAKE Akira) : 教授 大学病院 小児科
森 隆 (MORI Takashi) : 教授 総合医療センター 研究部
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 准教授 大学病院 歯科・口腔外科
堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 講師 医学部 微生物学
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 助教 医学研究センター

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

2019年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞4件, 一般枠34件, 計38件の応募があった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 関口記念特別賞1件, 一般枠26件, 計28件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(関口記念特別賞, 一般枠)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経由の使用, 経費報告書必要なし)が計7件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

2019年度の科研費採択結果は, 申請総数205件(申請率15.60%)に対して, 新規採択55件(採択率26.83%), 採択総額213,707千円であった。申請総数・率, 採択率, 採択総額いずれも去年とほぼ同様であった。今後も, 学内グラント等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 論文投稿報告書の管理

倫理審査の対象となった研究内容についての論文投稿に際し, 義務付けられている論文投稿報告書の提出は, 2019年度は91件であり, 2018年度(87件)に比較して4件増加した。2018年度は7月から9月にかけての報告数は6件と少なく, 学内ホームページやメール配信等で報告書の提出を促した結果, 10月から12月の報告数は29件と大幅な増加があった。2019年度は, 前年度のような時期による報告数の大きな増減は見られず, 年度末に向かって報告数が緩やかに増加する傾向が認められた。なお, 倫理審査の対象となった研究とは, 大学倫理審査委員会, 保健医療学部倫理審査委員会, 3病院IRBで審査された案件に関わる全ての研究である。

4) 剽窃検知ソフト iThenticate の試験運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文シデジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始め, 2019年度も運用を継続している。今年度から, 大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, 本ソフトを使用した検知を実施することが義務化された。なお, 剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。

5) 悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというプラン S 等の国際的な潮流に伴い、著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が急増しているが、誤って悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）に投稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。これに関して、前年度に引き続き、論文投稿報告書にチェック項目を設け、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルは PubMed に収載されていますか?」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか?」等について確認するように注意喚起を行っている。

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi) : 中央研究施設機能部門：教授：任期：R2年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATO Takeshi) : 歯科・口腔外科：准教授：任期：R2年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi) : 総合医療センター病理部：教授：任期：R2年3月31日
部門員：大島 晋 (OHSHIMA Susumu) : 中央研究施設形態部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi) : 中央研究施設 RI 部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami) : 中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIIBASHI Michio) : 情報技術支援推進センター：教授：任期：R2年3月31日
部門員：西本 正純 (NISHIMOTO Masazumi) : 中央研究施設日高ランチ RI 部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：水野 洋介 (MIZUNO Yousuke) : 中央研究施設日高ランチ機能部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：横尾 友隆 (YOKOO Tomotaka) : 中央研究施設日高ランチ実験動物部門：准教授：任期：R2年3月31日

2. 目的

本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、本学における臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動報告

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。現在、基礎医学棟3階に整備されており、12区画の実験スペースが容易されている。また、フェローステーションが併設されており、利用者はデータ整理と休息のために使用することができる。令和元(2019)年度は、医学研究センター、皮膚科、消化器一般外科、医学教育センター、ER、生理学(2グループ)、小児科、アドミッションセンター、消化管内科、毛呂山キャンパス RI 部門、歯科・口腔外科、保健医療学部看護学科により有効利用された(総利用料：¥276,000)。また、日高キャンパスゲノム棟4階にも同様のスペースが整備され、試験的に運用が開始されている。次年度から本格的に利用が開始される予定である。

【中央研究施設共同利用研究機器・設備整備】

①令和元(2019)年7月31日自動転写式電気泳動装置(機能部門設置)、8月31日高級実態顕微鏡(日高ランチ実験動物部門)、11月30日EM TPLM用樹脂包埋向け試料処理装置(日高ランチ実験動物部門)が、研究マインド支援グラントにより研究支援のために導入され、利用が開始された。

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

①令和元(2019)年7月31日、16:00-17:30、基礎医学棟3階会議室・中央研究施設機能部門「全自動前処理装置+細胞培地分析プラットフォーム+LC-MS」、対象：学内研究者

②令和元(2019)年8月28日、15:00-16:30、「自動転写式電気泳動装置「DIRECT BLOT BM-80の取り扱い説明会」、対象：学内研究者

【委員会等】**1) 共同利用施設運営部門／中央研究施設運営委員会会議**

①第72回中央研究施設運営委員会：日時：平成31(2019)年3月29日(月)～令和元(2019)年6月6日(木)，場所：メーリングリスト会議，【議事】1) 2018(平成30)年度会計報告に関して：前年度の会計報告がなされた。2018年4月より中央研究施設日高ランチに機能，実験動物，RIの3部門が改組され，従来の毛呂山キャンパスの各部門と経理を一体化して処理することとなった。2) 中央研究施設日高ランチ機能部門利用規則に関して：中央研究施設日高ランチ機能部門が4月1日より本格的に運用を試みる。共同利用機器利用規程及び共同利用実験室，フェローステーションの各利用内規について審議した。謝辞の英分の文法等のチェックの必要性について指摘された。機能部門共同利用機器利用規程に関して，本学の「諸規定管理規定」第4条に，規程：寄附行為，学則または法令等に基づけば，規則が妥当との意見があった。これらに関して，英文は本学教養教育・英語担当教師に修正を依頼し，後者に関しては「内規」に統一し，承認された。3) 人事に関して：形態部門において，退職者1名があり，保健医療学部卒業生1名が新規採用される旨報告された。また，以下が報告された。4月1日付で水野委員が日高ランチ機能部門長となり，日高ランチ長を坂本委員が兼担する。4) 中央研究施設運営委員会委員，オブザーバーに関して：2019，2020年度の委員とオブザーバーの構成について報告された。②第73回中央研究施設運営委員会，日時：令和元(2019)年12月16日(月)～令和2(2020)年1月10日(金)，場所：メーリングリスト会議【議事】1) 現在の中央研究施設への設置希望機器まとめ現在の中央研究施設への設置希望機器に関して：多くの研究機器は私学助成金を利用して購入を図る必要があるが，現時点では大型機器を申請できるような枠が無い旨説明された。小型研究機器の一部は，学内グラントに申請可能であると報告された。2) 人事に関して2019年12月1日付で以下の委員の昇進について報告された。日高ランチRI部門 西本正純：准教授，日高ランチ実験動物部門 横尾友隆：准教授，日高ランチ機能部門 水野洋介：准教授，機能部門 廣澤成美：講師3) 機能部門及び形態部門の利用内規に関して機能部門及び形態部門の利用内規(案)の改訂について学生の共同研究設備・機器の利用に関して議論があり，4条13)，細目1.に明記した旨説明され，審議の結果，本利用内規案が承認された。4) 日高ランチにおける「実験系廃棄物処理の手引き(案)」に関して説明された。審議の結果「実験系廃棄物処理の手引き」の内容に関して了承された。

【共同研究の啓蒙活動等】

東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクスセンター(平成29年4月1日～令和2年3月31日)及び城西大学(平成28年4月1日～令和2年3月31日)と中央研究施設の間で共同研究契約書を取り交わしており，共同利用施設を有効利用した研究が継続されている。城西大学との共同研究では，成果が有り，2020年2月21日，専門誌 *Rapid Communications in Mass Spectrometry* に掲載された(Characterization of 6-bromoferulic acid as a novel common-use matrix for MALDI-TOF-MS, DOI:10.1002/rcm.8636) また，東洋大学との研究成果も投稿中となっている。一方，日高ランチ機能部門管理下に，毛呂山キャンパスと同様の共同利用実験室，共同利用フェローステーションの整備が進み，リサーチパークにおいて研究活動を行う会社，各キャンパスの研究者による共同研究の推進とその支援に関して活動を行っている。

4. 評価と次年度目標

実験動物施設における感染対策に関しては，引き続き良好な結果が得られている。感染動物の検出はほぼ陰性の状態が続いている。助成金申請に関わる変化が大きいため共同利用施設運営部門として事務部門とタイアップし，共同利用研究機器購入経費を獲得することを目的として活動して来たが，他大学との連携が重要な面があり，外部向けホームページを公開した。令和元(2019)は，リサーチパーク開設され共同研究が展開されつつあり，日高ランチ機能部門が主に研究サポートについて検討している。また研究者，事務系との連携が運営遂行に不可欠であるが，現状円滑な進捗状況である。外部向けホームページへの日高ランチの情報公開は，予定より遅れているが年度内での掲載を目指す。

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介

(部門長 ゲノム医学研究センター 遺伝子治療部門 教授)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：ゲノム医学セ 遺伝子治療部門 (教授)

感染分野

副部門長 松井政則：微生物学 (准教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

光武耕太郎：国医セ 感染症・感染制御科 (教授)

佐藤正夫：保医学部 健医科学科 (教授)

河村 亨：臨床検査医学 (中央検査部) (係長)

池田和博：ゲノム医学セ 遺伝子情報制御部門 (講師)

廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：ゲノム医学セ 発生・分化・再生部門 (教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

安達淳一：国医セ 脳神経外科 (准教授)

野寺 誠：保医学部 健医科学科 (准教授)

淡路健雄：薬理学 (准教授)

DNA 分野

部門長 三谷幸之介：ゲノム医学セ 遺伝子治療部門 (教授)

副部門長 千本松孝明：RA センター (教授)

松井政則：微生物学 (准教授)

部門員 中野貴成：生化学 (講師)

村上 孝：微生物学 (教授)

佐藤浩二郎：大学病院 リウマチ膠原病科 (准教授)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

海老原康博：国医セ 臨床検査医学 (教授)

横尾友隆：中央研究施設 日高ランチ 実験動物部門 (准教授)

脇田政嘉：保医学部 臨床工学科 (講師)

菅原哲雄：RA センター 知財担当 (講師)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

西川 亮：国医セ 脳神経外科 (教授)

小野川 傑：保医学部 健医科学科 (教授)

仁科正実：中央研究施設 実験動物部門 (准教授)

横尾友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ランチ (准教授)

薬物分野

副部門長 淡路 健雄：薬理学（准教授）
西本 正純：ゲノム医学セ RI 実験施設（講師）
齋藤 健一：総医セ 薬剤部（課長）
藤田 健一：国医セ 腫瘍内科（講師）
藤原 智徳：保医学部 健医科学科（教授）
村松 俊裕：国医セ 心臓内科（教授）

RI 分野

副部門長 一色 政志：中央研究施設 RI 部門（准教授）
西川 亮：国医セ 脳脊髄腫瘍科（教授）
熊倉 嘉貴：総医セ 画像診断科・核医学科（教授）
茅野 秀一：保医学部 健医科学科（教授）
西本 正純：中央研究施設 RI 部門 日高ランチ（准教授）

2. 今年度の活動

感染分野

令和元年度は、病原体等取扱申請書 26 件（新規申請 9 件，継続申請 16 件，変更・追加申請 1 件），病原体等移動（受入）申請書 4 件，指定実験室使用申請 2 件が提出された。これらの申請に関して，病原性微生物等管理委員会で審議，修正された後，すべて承認された。

廃液等環境分野

本学の 3 つのキャンパス（毛呂山・川越・日高）における実験廃液の処理及び廃液基準の管理に関する業務は，それぞれ，施設部，事務部施設課，事務部総務課施設担当の事務職員が担当している。当部門の委員は全員で 5 名であるが，すべてのキャンパスから少なくとも 1 名の委員（教員）が配置されるように委員が決められており，いずれのキャンパスにおいても，本部門の委員と事務方の間でスムーズに連携が取れている。

DNA 分野

今年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認 29 件），内容変更（承認 23 件），譲渡届（承認 4 件）。また，組換え実験施設について登録・審査（6 件），教育訓練受講証明書発行（32 件）を実施した。

今年度より運用を一部改正し，承認時の管理体制と著しく異なると判断される場合は，該当する部屋の承認を取り消すこととした。この運用に従い，ゲノム医学研究センター旧ゲノム科学部門ならびに旧プロジェクト部門の部屋（ゲノム医学研究センター 401，403，414，511 号室）の承認，登録を取り消し，今後，組換え DNA 実験施設として利用を希望する場合は改めて申請いただくこととした。その他，整備を進めていた P2 実験室へ設置されている安全キャビネットの保守点検及びフィルター交換は，第 3 期研究マインド支援グラント（平成 30 年度）ですべて完了した。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は，各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。令和元年度，各キャンパスから提出された動物実験計画書 227 件 [注意を要する動物実験計画書：組換え DNA 実験（P1A 実験：81 件，P2A 実験：6 件），感染実験（ABSL1 実験：3 件，BSL2 実験：8 件，劇物使用実験：1 件，RI 使用実験：5 件）]，動物実験中間報告書・自己点検票 204 件，動物実験結果報告書・自己点検票 23 件，動物実験計画（変更・追加）承認申請書 71 件，動物実験（終了・中止）報告書 23 件，実験室設置承認申請書 28 件について審査を行い承認した。さらに，随時メール審査を開催し，円滑に動物実験計画書，動物実験計画（変更・追加）承認申請書，実験室設置承認申請書の審査を行い承認した。様式 8 動物実験の自己点検票と様式 9 飼養保管状況の点検票により，令和元年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は，組換え DNA 実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また，動物実験等に関する情報公開の一環として，以下の 1-6 の内容を外部閲覧可能なホームページ（<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>）に行った。

1. 期間内規程・規則（埼玉医科大学動物実験規程，埼玉医科大学動物実験委員会規則）
2. 自己点検評価の結果
3. 外部検証の結果
4. 飼養及び保管の状況（動物種及び動物数施設の情報）
5. その他（動物実験計画書等の審査の状況と特に注意を要する動物実験の実施状況，教育訓練の実績，動物実験委員会，動物実験委員会審査手順書）
6. 動物実験計画書関連書式（様式1 動物実験計画書，様式2 動物実験計画（変更・追加）承認申請書，様式3 動物実験（終了・中止）報告書，様式4 動物実験（中間・結果）報告書，様式5 飼養保管施設設置承認申請書，様式6 実験室設置承認申請書，様式7 施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届，様式8 動物実験の自己点検票，様式9 飼養保管状況の点検票）

薬物分野

本学の化学物質管理は，毛呂山キャンパス（ゲノム・保健医療学部を含む）・国際医療センター・総合医療センターと広範囲に及ぶために，それぞれのキャンパスにおける管轄行政機関が異なっており，本学化学物質管理規則も毛呂山キャンパス（ゲノム・保健医療学部を含む）・国際医療センター・総合医療センターで異なっており，現状の研究センター・安全管理部門・薬物分野での一括した化学物質管理が困難であった。薬物分野は業務の見直しを図り，本年度より本学全体での対応が必要な化学物質管理に関して，各毛呂山キャンパス・国際医療センター・総合医療センターへの調査・連絡・勧告を主業務とする事となった。

1. 研究用麻薬申請・向精神薬管理を薬物部門で一括して行っていたが，管轄保健所が異なること並びに，化学物質管理規約が異なることより各キャンパスで独立して管理を行う方向に決定した。このため，薬物分野としては研究用麻薬・向精神薬の学内調査を行った。公的機関（保健所）への報告を必要とする案件としては，新規麻薬免許（研究用）取得者が毛呂山キャンパスで1名・研究用麻薬購入が毛呂山キャンパスで2件（ケタミン）であった。
2. 化学物質管理の厳密化が求められており全化学物質の在庫管理・使用簿の記載など煩雑な事務手続きが必要になることが予想されている。加えて継続課題として，労働安全衛生法改正により必要となる化学物質についてのリスクアセスメントの問題もあり，管理方法のルールづくりを慎重に検討を継続している。

RI 分野

部門員下垣里河講師の退職に伴い，茅野秀一教授（保健医療学部）に交代した。毛呂山キャンパスの第三研究棟 RI 研究施設の新規利用希望者2名に対し，それぞれ2020年1月と2月に，新規教育訓練を実施した。既登録者のための再教育訓練については，2020年3月に実施した。新型コロナウイルス感染予防の観点から，例年のような講習の形式は取らず，再教育訓練資料を配布し，理解度確認テストの解答を確認することで本年度の再教育訓練とした。再教育訓練受講者は20名であった。また，放射線業務従事者への問診を2019年7月と2020年1月に実施した。受診人数は，それぞれ20名と23名であった。施設各部の経年劣化が危惧されるため，本年度は，RI 排水設備の点検について要望を提出した。

医学研究センター

フェローシップ部門

片桐 岳信
(部門長)

1. 部門概観

<部門員構成>

部門長	片桐岳信 (KATAGIRI Takenobu)	: ゲノム医学研究センター病態生理部門: 教授 (任期: R3.3.31)
副部門長	高田 綾 (TAKADA Aya)	: 法医学: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	森 茂久 (MORI Shigehisa)	: 医学教育センター: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	名越澄子 (NAGOSHI Sumiko)	: 総合医療センター消化器・肝臓内科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	石原 理 (ISHIHARA Osamu)	: 産婦人科学: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	淡路健雄 (AWAJI Takeo)	: 薬理学: 准教授 (任期: R3.3.31)
部門員	村松俊裕 (MURAMATSU Toshihiro)	: 国際医療センター心臓内科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	小林直樹 (KOBAYASHI Naoki)	: 保健医療学部・臨床工学科: 教授 (任期: R3.3.31)

<活動目的>

研究科委員会や医学教育センター大学院教育部門との連携のもとに、常勤教員以外の研究者（非常勤研究者）の経済的・身分的支援を目的とする。

<業務>

1. 奨学金候補者の選考
2. 非常勤研究員の審査・登録
3. 非常勤研究員の身分証明
4. 専攻生授業料免除の審査
5. 各種非常勤研究員の身分的位置づけおよびその他の支援体制の確立
6. 上記と関連して規定集（専攻生、協力研究員、特別協力研究員、特任研究員）の確認
7. 研究支援制度に関する議論と提案

2. 令和元年度の活動

- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の制度は、一旦の休止を経て、学長および医学研究センター長の了承もと、平成25年4月より暫定的に再開されている。令和元年度も、「2020年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の公募を行い、外国人留学生3名を候補者（うち2名は条件付き）、日本人大学院生1名を番外（再検討の可能性有）として選考した。
- ・これまでの検討から、本奨学金を有効に利用するために、募集要項の掲示時期を早め（7月に学内掲示）て申請者の十分な準備期間を確保するとともに、継続給付者を優先的に選考することとした。

3. 現状と今後の課題の総括

<本奨学金の有効利用について>

- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」が有効に利用されるよう、学内に広く周知すると共に、今後の改善策について継続的な議論を行う。
- ・次年度からの募集要項に、外国人留学生の在留資格と、日本人大学院生の収入に関する条件を明記する。

<定例会議とメール会議>

- ・それぞれの課題について迅速に結論を出すため、基本的に毎月1回程度のメール会議を行う。

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）の運用による、本学の研究業績のデータベース化、および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST: Japan Science and Technology Agency）が運用する「データベース型研究者総覧 researchmap」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用である。また、平成28年度からは研究活動実績登録の運用を開始し、人事考課で教育と同じく「研究のポイント制」を実施している。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、令和元年度の活動状況を報告する。

1 研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）について

1) 概要

「研究業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

（医学研究センターのホームページからもリンクあり）

令和2年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,231名の研究者が登録されている。利用（アクセス）の状況を図1に示す。

2) 運用の状況（令和元年4月から令和2年3月まで）

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 人事考課のための研究活動実績登録データダウンロード
- 8月 大学病院への研究業績の提出（特定機能病院）
- 10月 researchmap とのデータ交換の実施
- 11月 researchmap とのデータ交換の実施

3) システムの更新とカスタマイズ等

- ・埼玉医科大学 研究マインド支援グラント（共通部門）を受け、システムのバージョンアップを実施した。

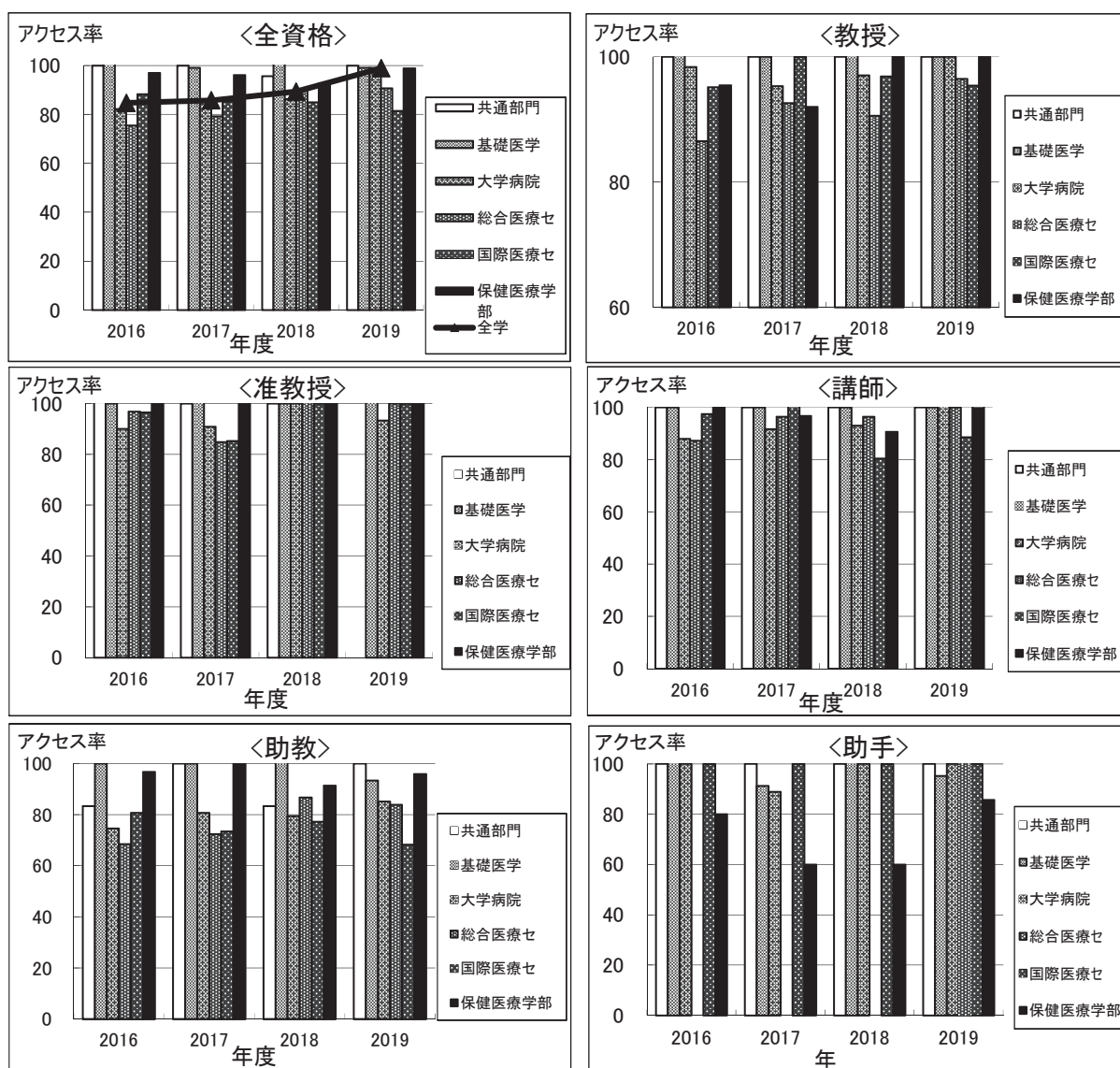
研究業績データベースアクセス数(2019/4～2020/3)

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	6	0	2	8	5	21
基礎医学	22	24	32	14	20	112
大学病院	74	28	48	206	8	364
総合医療センター	55	33	57	238	2	385
国際医療センター	62	37	39	99	1	238
保健医療学部	24	14	26	23	6	93
合計	243	136	204	588	42	1213

研究業績データベースアクセス率

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
基礎医学	100.0	104.3	100.0	93.3	95.2	99.1
大学病院	100.0	93.3	102.1	85.1	100.0	90.8
総合医療センター	96.5	100.0	100.0	83.8	200	89.1
国際医療センター	95.4	100.0	88.6	68.3	100.0	81.5
保健医療学部	100.0	100.0	104.0	95.8	85.7	98.9
合計	98.0	99.3	98.6	81.9	97.7	89.7

2020-3-31現在



* 100%を超えているのは、退職後、非常勤になってからもログインした方がいるため

図 1.